



Title	西太平洋地域事務局インターンシップ報告
Author(s)	石川, 渚
Citation	目で見るWHO. 2015, 56, p. 17-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86688
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

西太平洋地域事務局インターンシップ報告

London School of Hygiene and Tropical Medicine 修士課程所属 石 川 渚



Nagisa ISHIKAWA

2009年 中央大学経済学部卒
2011-2014年
青年海外協力隊、ザンビア共和国
2014年2-8月
WHO西太平洋地域事務局にてインターン
2014年9月-
ロンドン大学衛生熱帯医学大学院途上国
公衆衛生修士課程所属

●はじめに

私は 2014 年 2 月から 6 ヶ月間、フィリピンの首都マニラにある世界保健機関 (WHO) 西太平洋地域事務局 (WPRO) の結核・ハンセン病対策課にてインターンシップを経験しました。インターンシップの前は、JICA 青年海外協力隊として南部アフリカのザンビア共和国にて地域の感染症 (主に HIV) 対策に携わっていました。ザンビアで国際保健の末端の現場での活動を行う中で、WHO の仕事と役割を知る必要性を感じていたところ、幸運なことにインターンの機会を頂くことができました。この経験を通して将来に繋がるスキルや知識を獲得でき、充実した時間となりました。以下、インターンの内容をご報告します。

●インターンシップ内容

私はスーパーバイザーの指導のもと結核対策課の業務を手伝いつつ、結核対策、WHO の仕事について学びました。インターン開始当初は課の仕事の内容を知る意味も含め、過去に作成された資料のまとめなどの仕事から取り組みました。私の過去の感染症対策の経験は主に HIV や性感染症の予防啓発だったので、結核対策課で使われている資料を読み込むことにより、結核や結核対策について理解を深めることができました。その後、ファクトシート (テーマの関連情報をまとめた資料) や西太平洋地域の結核と

対策状況に関する資料作成業務を担当するようになりました。次で実際に作成した資料について説明します。

●西太平洋地域の結核に関する資料作成

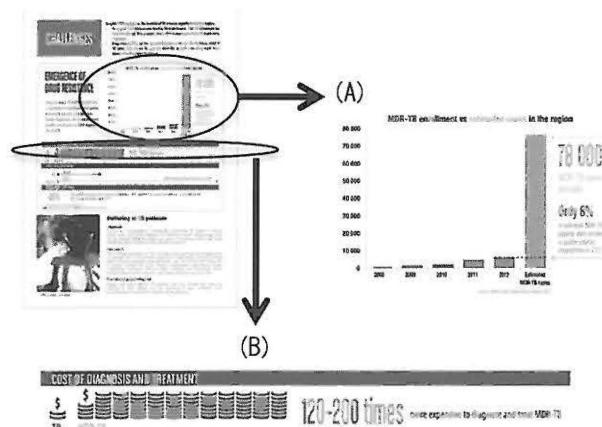
西太平洋地域における結核とその対策の状況については、WHO 本部により毎年発行される結核のグローバルレポート *1 や ファクトシート *2、WPRO 結核対策課が作成している資料などにより知ることができますが、今回私が業務で作成した資料は、西太平洋地域における結核状況と対策に関して、これまでの成果、現状の課題、WPRO の対応を一つにまとめたものです。資料は非医療従事者が読んでも理解されやすいように作られており、今後、主にドナーやパートナー組織 (結核状況と対応のアップデートや、ファンドレイジングの為) や外部の方とのコミュニケーションツールとして様々な場面で使われる予定です。



(参考1)表紙と1ページ目 - Tuberculosis in the Western Pacific Regionサンプル段階資料から抜粋

資料では、西太平洋地域の結核対策における成果、現在の課題、トピックと WPRO の対応が 6 ページ程で説明されており、文章だけではなく情報が視覚的に表現されています。例えば 課題のページ では、西太

平洋地域が多剤耐性結核や超多剤耐性結核の課題に直面している状況が説明されています。参考 2 の (A) のグラフでは、多剤耐性結核の治療アクセス数と推定の発生数が比較されています。2008-2012 年までの各年で多剤耐性結核の治療へのアクセス数は上昇傾向にあるものの (A：縦棒左から 2008, 09, 10, 11, 12 年)、2012 年の治療アクセス数と推定 78,000 の年間多剤耐性結核発生数を比較すると、治療アクセスは全体のわずか 8% に留まるという大きな差がグラフからわかります。(B) では、多剤耐性結核の対応課題の一つとして、通常の結核と多剤耐性結核を比較した場合、後者の診断と治療費用がいかに高いかが表されています。



(参考2)課題のページ - Tuberculosis in the Western Pacific Region サンプル段階資料から抜粋

作成にあたっては内容の構成やデザイン案をスーパーバイザーや結核対策課のメンバーと相談しながら進めました。結核に関するデータを視覚的に見せる部分が多かった為、内容のサンプルを作る過程でも多く悩み、苦労をしましたが、結核対策課の皆さんからのサポートを頂きながら作業を進めることができました。この過程でも多くの知識を得ることができました。また、デザイナーさんや WPRO の広報担当の方々とのやりとりも担当できた為、WPRO の中での業務の進め方についても学ぶことが多かったです。

*1 最新版の Global tuberculosis report 2014 はこちらから閲覧、ダウンロード可能

http://www.who.int/tb/publications/global_report/en/

*2 <http://www.who.int/tb/publications/factsheets/en/>

●様々な機会と学び

担当した業務以外にも、WPRO が行っている会議の見学や セミナー、イベントへの参加の機会、そしてスーパーバイザーから多くを学びました。

6ヶ月のインターンシップ期間には、WPRO で3日間に渡って行われた抗結核薬の規制に関する会議 (会議名: Quality-Assured Drugs for Better Public Health: Regulation of TB Medicines in the Western Pacific Region) を見学でき、この会議内容を理解することで、結核対策を分野横断的な視点に立って考える必要性を理解することができました。また、結核対策課が開催した世界結核デーのイベントでは、多剤耐性結核を克服した患者さんによるリアルな語りをプログラムに盛り込んだセッションがあり、元患者さんの治療過程の辛さや病気になったことによる人生への影響、さらには公衆衛生の担い手に期待することを目の前で聞く機会がありました。これを通して、保健システムのあり方や、世界各国の結核対策が患者さんの健康や人生に及ぼす影響を実感し、公衆衛生の一つ一つ仕事の意味について再度考え直す機会となりました。こうした機会やスーパーバイザーとのやりとりを通して、知識以外にも、公衆衛生に携わる者としてのマインドセットの部分も考えられ、気づきと学びの多いインターンシップとなりました。

●おわりに

私にとって WPRO での経験は全て新鮮で毎日が学びの連続でした。業務終了後もスーパーバイザーは献身的に指導をして下さり、業務に必要な知識とスキルの習得ができました。スーパーバイザー以外のスタッフの方々からも多くのサポートを頂けた為、難しい状況があったとしても前向きに取り組むことができました。

最後に、このような機会を与えてくださった日本

WHO 協会様、スーパーバイザーの錦織信幸先生を
はじめ WPRO 結核対策課の皆さんに心より感謝申

し上げます。



(結核・ハンセン病対策課の皆さんと)

広告

その夢を、
あと押し、ひと押し。

三倉実奈
三倉佳奈

信頼で地域とつながる
 大阪シティ信用金庫

本店/〒541-0041 大阪市中央区北浜2-5-4 TEL. (06) 6201-2881 (代表)
<http://www.osaka-city-shinkin.co.jp/>

大阪府内に95店舗。大阪市内全24区に店舗を有する唯一の地域金融機関です。

平成27年1月15日現在